



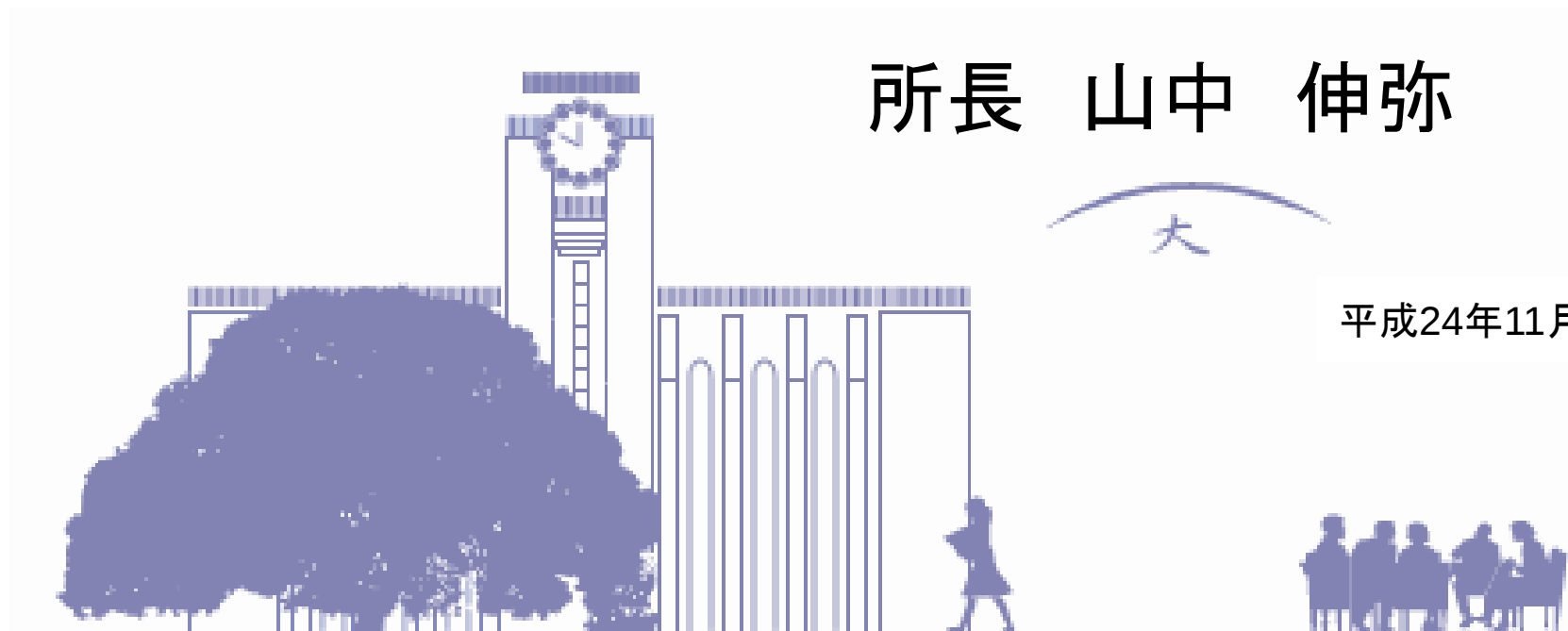
科学技術イノベーションを巡る課題

京都大学iPS細胞研究所
Center for iPS Cell Research and Application
(CiRA)

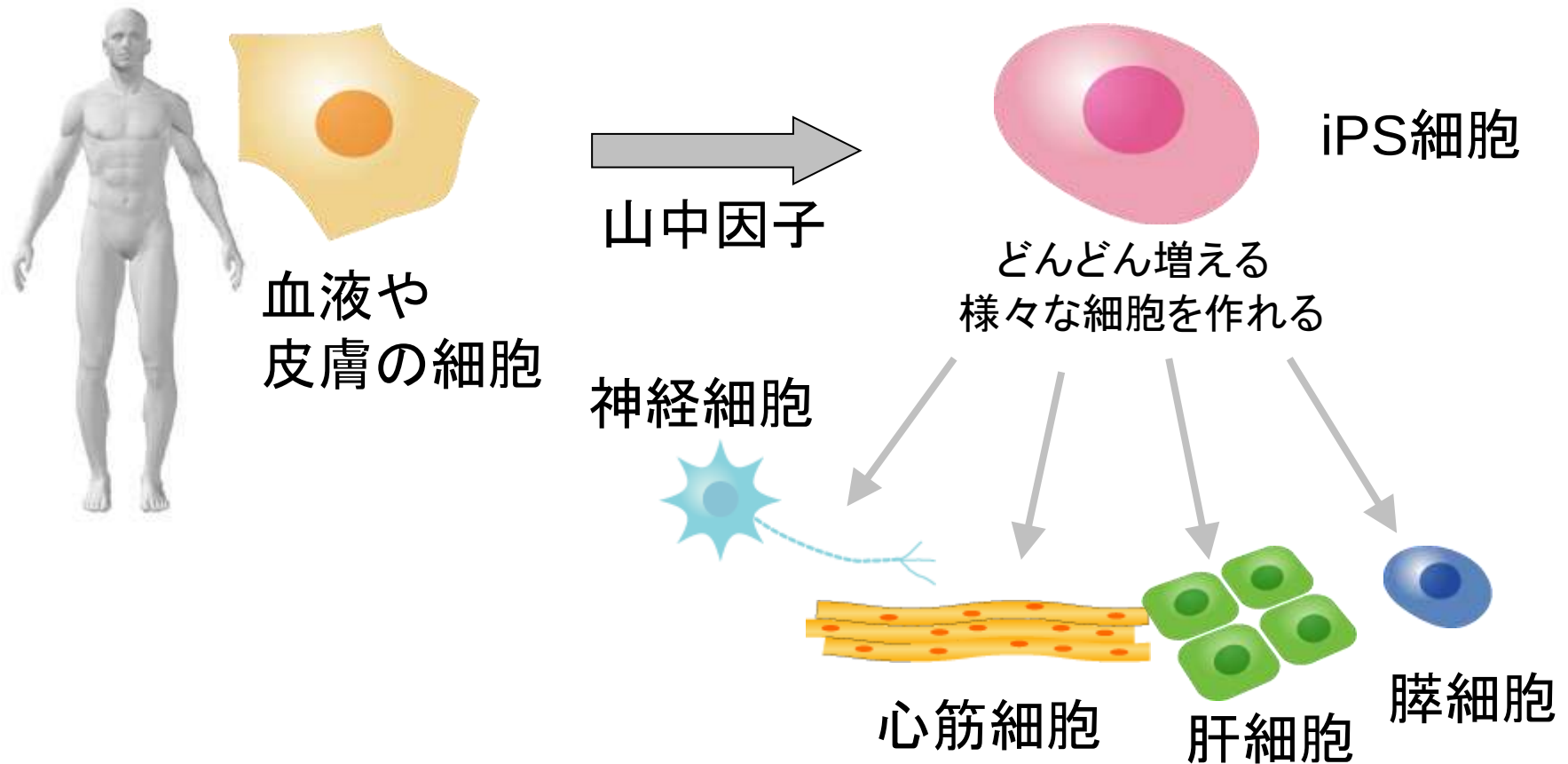
所長 山中 伸弥



平成24年11月2日



国に支えられたiPS細胞の発明



人工多能性幹細胞 (Induced Pluripotent Stem Cell)

マウス: 2006年

人間: 2007年

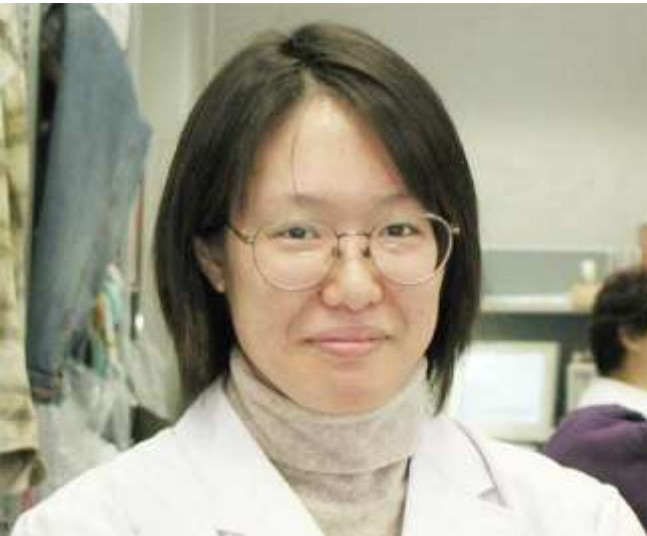
JST／CREST 2003年度～2008年度

1999年12月、奈良先端大で自分の研究室を持つ

30代で独立出来たことがiPS細胞樹立につながった



立役者あつてのiPS細胞樹立



徳澤さん



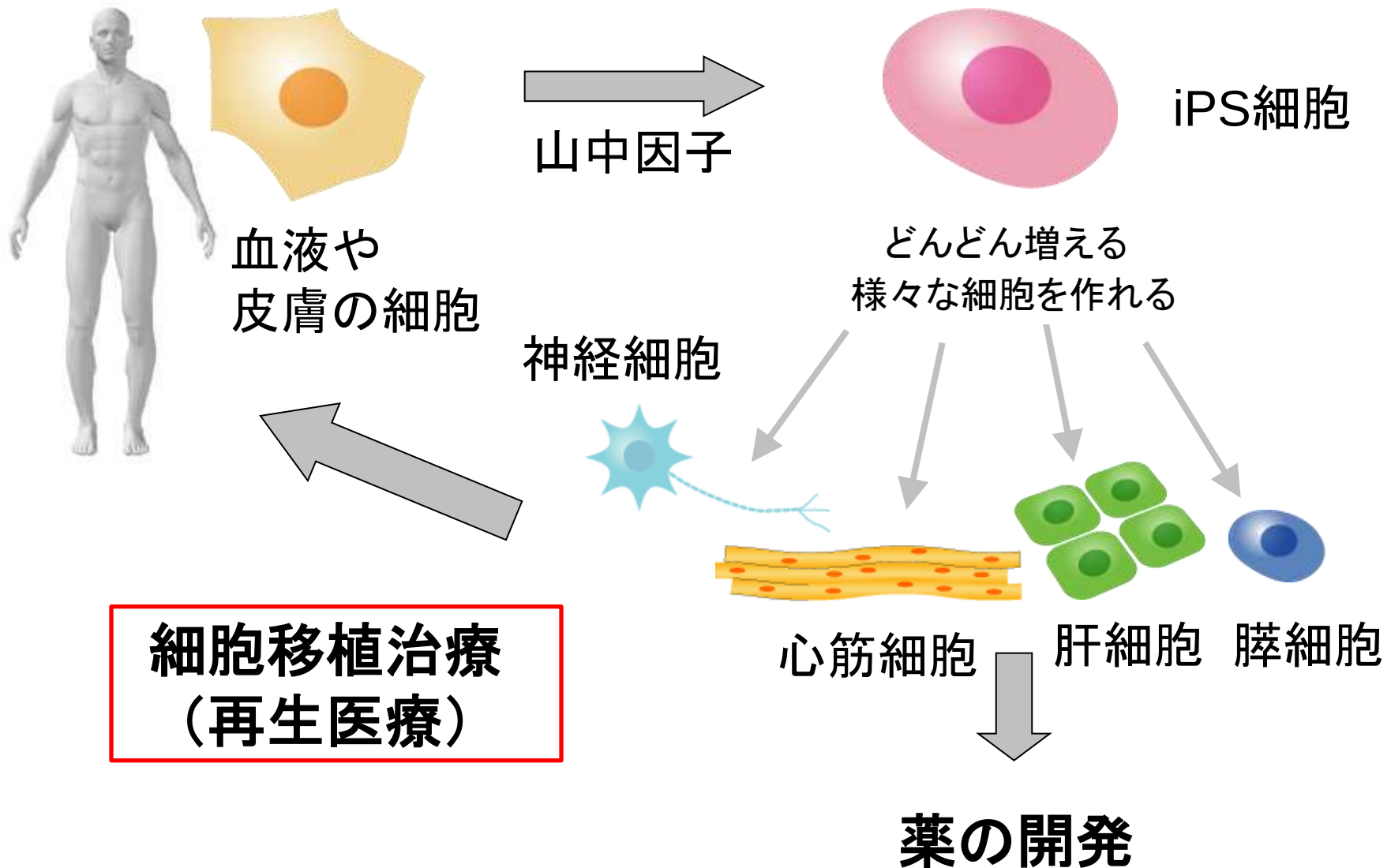
高橋君



一阪さん

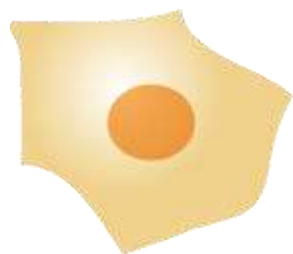
環境と人材あつてこそその成果

iPS細胞：何ができるか？



京都大学再生医療用iPS細胞ストック

ストック作成



臍帯血
ボランティアの方の末梢血



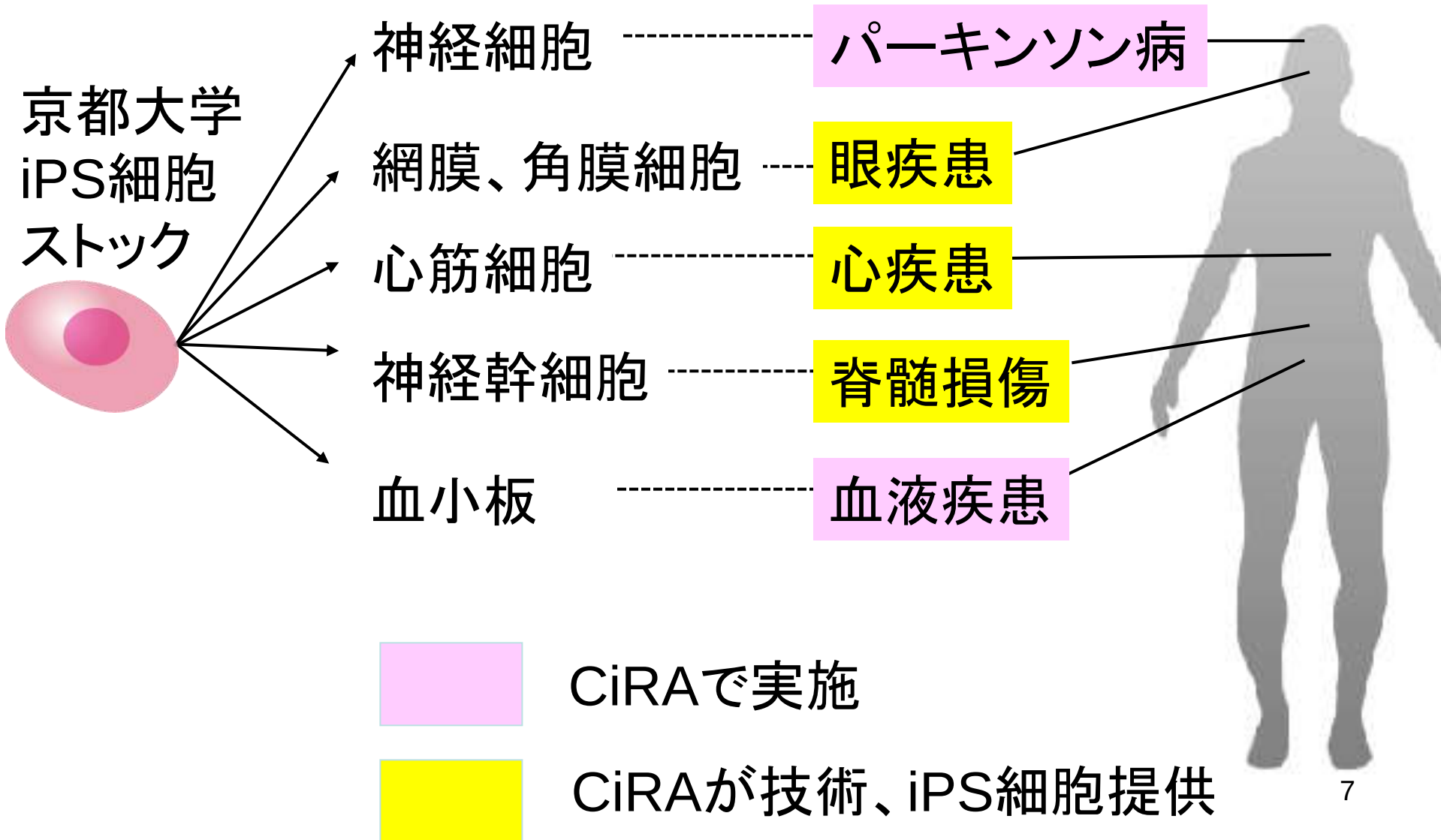
iPS細胞

徹底的な
品質管理

コストダウン、時間短縮が可能

拒絶がおきにくい特殊な細胞型(HLA型)の方から樹立

臨床研究に近い再生医療



資金面での課題

前臨床研究、臨床研究、治験には20年近い時間かかる

⇒ 切れ目のない長期的ご支援が必要

⇒ 研究開発に必要な人材の安定的雇用が必要